

## ボランティア学習

「リサイクルきものフェア」や「もめんの夏」で新しいボランティア募集をしたところ、9名の申込みがありました。そこで7月20日(水)、FRNの活動を理解して頂くために、ボランティア説明会&学習会を開催しました。

始めに代表のあいさつからFRNの成り立ちと活動内容の説明、「古布・古着」の回収活動から「リサイクルきものフェア」などを開催するに至った経緯、そしてFRNの活動には、多くのボランティアさんの協力が必要なことを話しました。

ボランティア登録をして、春のきものフェアの実行委員長を受けてくれた菅原さんの、のんびりと楽しく活動に参加しています。説明が良かったのでしょうか、9名全員の方がボランティア登録されました。



鈴木芳子

## FRNのリテックス製品

よみがえり、よみがあーるが、昨年新しく製品化され、作業用手袋としてサイズが大・小そろいました。使い終わった制服・作業服の回収繊維を主な原料として、染色や脱色をせず作られているので、環境にやさしいエコ手袋です。CO2の発生が通常手袋の6分の1で、地球温暖化に貢献します。グリーン購入法適合商品、平成22年度かながわりサイクル認定製品になりました。リサイクルされた品物として、おいに使用していきましょう。

1双50円で販売しております。  
お問い合わせは、FRN事務所迄

黒柳市枝



**ひと言** 2011年前期の「古着伝言板」を発行することができホッとしています。毎回試行錯誤しながらFRNの活動を伝えていく様頑張りました。

ファイバーリサイクルネットワーク (FRN) は法人格を取っていませんがNPO団体です。行政や企業からの援助などは受けず、経済的に自立している団体です。

## 逗子市葉山町地区連絡会 ナカノ樹業野工場に 行ってきました

6月3日(金)参加者20名で勉強をしてきました。拠点でファイバーの回収活動をしている人が半数以上です。学んだ事を書いてもらいました。

\*ファイバーリサイクルは単に必要な物を必要な人の所に送るといふだけでなく他の国においても雇用を生み出したり、他の人を思いやるという気持ちナカノの理念に、目からウロコが落ちた気分です。  
\*家庭から出された衣類が、この工場を通り、東南アジア諸国の産業、商業 etc また発展しているということを知り、ゴミとして捨てていくことは、決してすべきでないことを学びました。

\*リサイクルの仕組み、資源になる過程がよくわかりました。  
\*衣類リサイクルの全体的な関係がよくわかりました。外国との関係、国内での流れなどもよくわかりました。  
\*手で選別している姿に感動作業されている人達に感謝です。 鈴木マリ子



# 古着伝言板



## 報告会

新たな衣文化の創造を目指して

—リメイクから循環型社会の実現に向けて—

ファイバーリサイクルネットワークが1992年に発足して早くも19年目に入りました。今年(2011年)2月28日に18年の実績と19年目に向けての報告会(他では総会と呼ぶ)をしました。この18年間の年月の変化の速さは私達には創造しがたいものがあります。行政の「ゴミ」から「資源」に対する施策もどんどん変わり、市民活動に割り込んできました。このため回収活動が困難になり、回収拠点を廃止したところも出てきました。それでも布は「ゴミ」ではない、大切な「資源」であるとの当初の信念を曲げることなく回収活動を続けてきました。これからは「古布・古着」は「宝の山」と言って活動を始めたファイバーリサイクルの活動は続けて行きます。資源を大切に、循環型社会の構築の為に回収活動だからです。「リサイクルきものフェア」の準備のお仕事に事務所にきて下さっているボランティアさんにもファイバーリサイクルの意味をお伝えして行きます。

春・秋の「リサイクルきものフェア」「もめんの夏」などのイベントの和服類にしても次の時代に入ったように思われます。「絹」ものが多かった時代は終わりつつあるようです。ウールものや化繊物が出てきています。ファイバーリサイクル活動としても、この現実から逃れるわけには行けません。この現実を捉えて、どのような使い方があるのかの情報を社会に流して行かなければならないでしょう。沢山の情報が流れている中で、身近にできる循環型社会とは、こんなに楽しく、しかも環境に優しいんだと言う事を「知らせ」「知ってもらおう」ことが活動の大きな役目でしょう。

2011年8月10日 発行

〒232-0017  
横浜市南区宿町2-40 大和ビル101  
Tel. 045-710-6507  
Fax. 045-710-6508  
ホームページ: <http://jimfiber.web.infoseek.co.jp>  
発行: ファイバーリサイクルネットワーク

循環型社会を目指す活動としては、最後の手段としてリサイクルがあります。とくに和服は直線裁ちなのでリサイクルしやすい物です。けれど、豪華な江戸袷(留袖)をパーティードレスに作り直して、とうとう1度も着なかったと言うのでは、本当のリサイクルとは言えません。普段でも着られるもの、ちょっとした会合やお出かけにも着られるものでなければ意味がありません。またどんな端切れでも利用できる事を知らせることも大切です。この会のメンバーは、以上の事柄に対して、それぞれが沢山の能力と知恵を持っているので、活動の大きな力になっています。これからは力を合わせて共に活動して行きましょう。以上のようなことを報告会で確認し、19年目に入ることができました。

服部孝子

### ◎報告会

2011年2月28日(月) 11:00~15:00

場所: まいたエコサロン

### ◎大岡小学校の出前講座

1月13日(木)、3月2日(水)

9:30~13:00

### ◎春のリサイクルきものフェア

4月19日(火) 10:00~16:00

場所: かながわ県民センター

### ◎羽織でつくるリメイク講習会

5月19日(木) 11:00~15:00

場所: まいたエコサロン

### ◎もめんの夏

6月30日(木) 10:00~16:30

7月1日(金) 10:00~16:00

場所: 男女共同参画センター横浜南

(フォーラム南太田)

## 春のリサイクルきものフェア

東日本大震災から1ヶ月余りの開催で、まだ大きな余震もある中始まったきものフェアでした、もし開催中に地震が来たらどうやってお客様や、スタッフを安全に誘導させようかと警備の方と相談をしたりしました。

幸いにも、杞憂に終わりましたがあとで考えるとスタッフお客様から中止では？という問い合わせは全くなく、皆が「やりましょう」という気持ちで繋がっていたのだと思います。

当日は細かい事を指示しなくても、各コーナ担当者達はそれぞれの働き方を自覚して下さっており大きな声が行きかう事なく全体にゆったりした会場であったと思います。



毎回朝1番で入場し帯やきものをインテリアに使うと熱心にさがす外国の奥様達が少なく自国に戻られたのかと、ちょっとさみしい気もしました。

実行委員長という立場になってみますと、フェア当日に至る迄の準備、県民センターへ仕込み表を出すこと、各マスコミにイベントのお知らせを依頼し、ファックスや電話でのやりとりに始まり、そして大和ビルの大家さんへ中庭使用、トラックの手配、レンタル備品の確認、当日スタッフへの協力、確認の電話、等々本当に今まで知らなかった事が多く、とても勉強になる事ばかりでした。けれど終わってお客様のアンケートを見ますと、ほとんどの方が接客、買われたものについてほぼ満足が一番多く、続いて満足、普通、良くないと答えられているものはありませんでした。

回を重ねるごとに皆の知恵で接客、あとかたづけ等いろいろなところでスムーズになりひょっとして私達「イベントのプロ集団」なんて冗談も出るほど気持ちのよい1日でした。何はともあれ事故もなく楽しく終れたのは嬉しい事でした。協力頂いた実行委員19名、そして38名の当日ボランティアの方達本当にありがとうございました。

菅原和子

### 羽織でつくるリメイク講習会

ここ数年フェア開催時に型紙がほしい、リメイクの仕方など教えてほしい、講習会を開いてほしいとの声が多くありファイバーとしても対応しようとする中で、きものフェアのあと5月19日(木)に取り組むことになり、フェア当日にチラシを配り希望者を募ったところ、翌日には早々の申し込みがあり、17名の方を午前10名午後7名とに分け実施出来ました。(オーバーブラウスとベスト)の2種の型紙と補正、縫い方のアドバイス等に取り組み、参加者の方々から、次回はいつかの声もあり会としての宿題となりました。

大木麗子



### 大岡小学校の出前講座

大岡小学校で行われた和服での物作りに参加して来ました。普段子供達と接する機会が少ないせいか、とても緊張してしまいました。一回目は、お手玉組、キーホルダー組、ブックカバー組と分れ作業を行いました。私はお手玉組を担当し、4枚つぎ合わせのお手玉は子供達にはむずかしい様に思いましたが二個仕上げる子もいて驚きました。二回目は吊るしびな作り(あさりの金魚)とクッション、金魚のストラップ作りを行いました。子供達は作るコツをつかみ、友達や両親にも上げるとの事で、ストラップをいくつも作っていました。出来上がったものを廊下にあるおひな様と一緒に飾り「これ私の」「あれ私の」と笑顔で一杯でした。最後に五年三組の教室にもどり、グループごとに給食をいただき、楽しい一時を過ごすことが出来ました。

後日、先生と生徒全員から顔写真入りのお礼状を頂きました。 鈴木ケイ子



FRN事務所に学習に来た大岡小学校の先生と生徒

## もめんの夏

「もめんの夏」は従来の春秋フェアと少し異なり、お客様の入場の時間帯が片寄り、読めない部分があり、戸惑う事が多い。しかしあいだのゆっくりした時にお客様との語らいや情報交換をするのが楽しい時間となっている。

ここ数年はほとんど変わらない顔ぶれで頑張っているが、皆の元気さには驚くばかりで、好きな布に触れながら活動できる事、そこからパワーをもらっているのだと、つくづく感じている。これからも楽しくボランティアを続けて行けたらと思っている。

室田美和子

「もめんの夏」も6回目(6年目)になり入場者数も増え、前回買ったきものから今年はリメイク品を着ていらっしやる人の多かった事、私達もいい刺激になりました。

講習会は場所が暗く大変そうでしたが出来上がったお地蔵様を嬉しそうに、とてもいい顔をしてそっと大事に持って行かれたのが印象的でした。でも、体力的には暑い三日間でした。

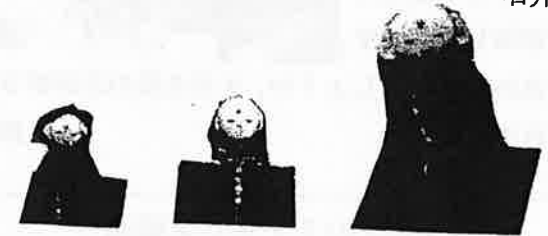
風間友子



「もめんの夏」の講習はお地蔵様でした

小さい頃の思い出は、道端にポツンとたたずんでいたお地蔵様に手を合わせて通った思い出があります。お地蔵様を作る時、この菩薩は両手を差しのべ引きあげると聞き、慈愛のあるお地蔵様だと知りました。顔を見てはほほえみ、出来上がって来る度に、作る人の気持ちがお地蔵様に伝わる様に、目と口を入れ一人一人が表情豊かに作り上げその人達を見て、教える事の大切さをつくづく知りました。

石井ヒサ子



### FRN 基金 (緊急支援報告)

この度の東日本大震災で、お亡くなりになられた方、被災された地域の皆様には心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

あの3月11日から5ヶ月が経とうとしていますが、まだまだ先の見通しも立たず、避難所生活を余儀なくされている多くの被災者の方々、また仮設住宅に移り住むも期限付きという状態、このような状況も、各紙、各局で取り上げたものでしか知ることが出来ず、本当の被災地の厳しい現状は計り知る事ができません。私たちFRNが出来る支援として、下記の通りに救援金として緊急支援をしましたので報告をさせていただきます。

- \* 4月10日 10万円救援金 (財) 神奈川新聞厚生文化事業団を通して日赤へ
- \* ※5月20日 125,360円「春のリサイクルきものフェア」の売り上げの一部と会場内設置の募金箱の合算額を救援金として、(財) 神奈川新聞厚生文化事業団を通して日赤へ  
※は、かながわ新聞に掲載されました。
- \* 8月1日 77,286円 「もめんの夏」の売り上げの一部と、会場内設置募金箱と事務所内設置の募金箱の合算額を、福島県内で長年古着のリサイクルを中心とした活動団体、特定非営利活動法人「ザ・ピープル」(1990年12月設立)に支援しました。  
※ 「ザ・ピープル」には、FRN 基金の支援先として、継続支援していく事を運営委員会で協議し決定しました。 \* 「ザ・ピープル」の詳しいことはホームページでご覧下さい。

赤岡清子